

英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業

日英原子力共同研究プログラム

事後評価総合所見

研究課題名：シビアアクシデントにおける炉心構造物移行の高精度数値シミュレーション	
研究代表者（研究機関名）：岡本 孝司（東京大学大学院工学系研究科）	
研究期間及び研究費：平成26年度～平成28年度（3年計画） 30百万円	
項目	要約
1. 研究の概要	<p>シビアアクシデント時の事故進展を模擬するため、東京大学及び英国 Imperial College London（以下、「IC」という。）が協力して、制御棒の共晶過程及び再配置を模擬するための詳細な熱流動シミュレーション技術をそれぞれ開発して、検証（Verification）と妥当性確認（Validation）に関する研究として以下を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 調査研究及び検証実験2) 熱流動シミュレーション
2. 総合評価	<p>S シビアアクシデントにおける炉心構造物の移行について、高精度な数値シミュレーションとして、可視化もなされており、新規性の高い優れた成果が挙げられている。また、ICとの共著論文も出されており、学生の受賞も多いことから、日英共同研究として効果があったことも評価できる。</p> <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>